

地下鉄終点に行ってみた **Part IV**

みんな大好きメトロ企画の第4弾! 拡大を続ける上海の地下鉄終点をレポートします!

軌道交通 5号線 奉賢新城駅



日系テナントも入る大型モール



人工湖「上海之魚」は「金海湖」とも呼ばれる



外観がオシャレな村役場



陽光が芸術的に射し込むトンネル



軌道交通 14号線 封浜駅



駅前には工事すら進んでいない空き地が広がる



遠くからでも目を引くエレベーターの試験棟



高速鉄道の高架には3路線が通る



昼時のバイク道には屋台テーブルが並ぶ



上海ナンバー2の人工湖

軌道交通1号線の終点「莘庄」駅から、さらに南へ45分。軌道鉄道5号線終点の「奉賢新城」駅の出口を上がると、巨大ショッピングモールに出迎えられる。周辺には築年数の浅い高層マンションが立ち並び、ここは市内中心部から1時間、ベッドタウンといったところだろうか。

早速シェアバイクで北に向かって走り出すと、モスク風の立派な建物がある。この地区の村民委員会が入っているようだ。

そしてその東側に広がるのは「上海之魚」と呼ばれる湖。上海市内で2番目の広さを誇る人工湖で、芸術的なオブジェが並ぶ湖畔は青空美術館を歩いているかのようで面白い。中でも「奉賢博物館」の横にある木製のトンネルは、絶好の写真スポットなのだとか。休日のにぎりに過せそうな場所だ。

土ほり舞う嘉定区の工業地帯

「封浜」駅は2021年に開業した軌道交通14号線の終点だ。駅の階段を上ると、大きな産業道路の前に出る。周辺にあるのは低層の小区と、埃っぽい空き地のみ。何も無いのではと焦ったが、西側に高速鉄道の高架が見えたので向かうことにした。

高架には上海郊外へ向かう路線が複数走っており、3分おきに列車が通過していく。この近くには、将来「封浜火車」駅が作られる予定だそう。さらに先の交差点には、エレベーター会社の試験棟という巨大なタワーがそびえ立つ。昼前ということもあり、バイク道には三輪車の露店がテーブルを出して開店準備をしていた。

数年後はどのように変化するのだろうか。今後の開発が楽しみな終点駅だ。

軌道交通 18号線 航頭駅



「船魂」と名付けられた彫刻。船首の乗組員たちが勇ましい



川べりに見つけた釣りの特等席



川から見る美術館は、まるでヨーロッパ城のよう



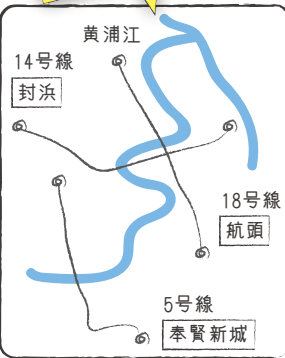
明代からの建物が並ぶ「新場古鎮」



ジュワッと肉汁があふれ出す「下沙焼売」



地下鉄終点MAP



再び駅方面に戻ると、穏やかな運河を見つけた。陽当たりのよい川沿いには釣り人がちらほらおり、中には専用の椅子まで置いている人も。向こう岸に見えたオシャレな洋館は「上海浦東天鵝堡芸術館」で、2匹の野良犬に行く手を阻まれ入館は断念したが、ヨーロッパさながらの風景だ。

ラストは20分ほどバスに揺られ、取材中知人に教えてもらった「新場古鎮」へ。長江河口付近の三角洲だったこの辺りは、古くから塩田として栄えた歴史を持つ。明の時代からの建築物が建ち並ぶ古鎮は、とにかく食べ物で賑わっており、中でも肉汁たっぷりの「下沙焼売」は文化遺産に登録されたこのエリアの代表的な小吃で人気。熱々に蒸したものをその場で食べることもできるし、持ち帰りもOK。気になったらぜひ足を運んでみて。

明代から続く古鎮

「航頭」駅は、浦東新区の「南匯」といわれるエリアに位置する軌道交通18号線の終点だ。駅前にはスラリ並んだバイク以外特に目を引くものもなく、地図を見ても目ぼしい観光ポイントはない。行き当たりばったりで西の方に自転車を走らせてみると、1キロほど進んだ先の大きな広場に躍動感ある船の彫刻を発見した。これは2008年、中国の貨物船がソマリア海賊に奇襲された際に、船員の安全と貨物を保護し戦い抜いた敏腕船長を記念し作られたものらしい。彼の出身地がこの「航頭」なのだそう。